

【様式】 令和5年度 福井県立丸岡高等学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習支援	a. 課題解決力向上を目指し各自または他者と協働した「探究的な学び」を取り入れた指導法の研究に努める。 目標：学習に関する姿勢と指導法の評価指数（実行度）80%以上	「十分できた」、「ある程度できた」と答えた教職員の割合が89%で実行目標を上回っている。昨年とは質問内容が変更されている部分があるため単純に比較することはできないが、数値としては1ポイント上昇しており、本校が目指している探究的な学びを推進しているという意識が教職員に浸透していると考えられる。今後は、探究的な学びを深化させるためにも、生徒の主体	学習状況調査の結果を見ると、生徒の学習への意欲や取組状態は、学年間、教科間でばらつきが見られている。各教科の必ず身につけるべき基礎基本への指導と、興味関心や能力に応じて伸ばしていく指導などメリハリをつけた指導法を取り入れ、基礎学力の定着と探究的な学びの深化を図る必要がある。
	b. 基礎学力の定着のために、個に応じた適切な課題を与えたり、個人面談を利用するなどして、家庭学習時間を増加させ、学習習慣の確立を図る。 目標：学習習慣確立についての評価指数（実行度）70%以上	教職員からの適切な課題提供については93%で目標値を超えている。また、「自分で課題や目標を定め、それに向かって計画的に課題や予習・復習をしている」と自身を評価している生徒の割合は86%で、昨年度から10ポイント増加しており、保護者から見た生徒の評価も昨年よりも上がっている。全体として目標値を超えており、学習に取り組む姿勢が向上傾向にあるといえる	学習状況調査の結果では、家庭学習の時間は3年生は増加しているが、1、2年生では減少しており、アンケートの結果とはズレが生じている。校内で学習している可能性も考えられるが、家庭で落ち着いた学習に取り組むことに課題があるといえる。主体的に取り組む姿勢を育むために、各教科、各学年で到達目標を示すとともに、課題の適正化を図り、個人面談などを通して、家庭での生活習慣について
2 生徒支援	a 学校のルールを自ら守る意識を醸成し、良識ある社会人になるための規範意識を身に付けることへの支援を行う。 目標：学校のルール遵守に関する評価指数（実行度）80%以上	一昨年度、生徒会を中心に学校のルールを見直し、現代の生活にそぐわないルールの改善を図った。その結果、昨年度においては生徒は自らが決めたルールを守ろうという意識がしっかりと見られた。 しかし、それから一年が経ち、生徒や教職員間のルール順守に対する意識が若干薄れてきたように感じる。 そのような現状の中、アンケートにおける実行度は9.0%を大きく超える数	今一度学校のルールを再認識させ、生徒会を中心に今後も自主的に学校のルールを順守しようという気持ちを醸成するよう、サポートしていきたい。 また、昨年度に引き続き、現在のルールを守ったうえで、新たなルール変更が出てきた場合、生徒と教職員が検討を重ね、柔軟な対応をしていきたいと思っている。
	b 生徒会活動、ホームルーム活動、部活動を通して、自主自立の精神を育む。 目標：特別活動への積極的参加に関する評価指数（実行度）80%以上	本年度も、近隣中学校への学校訪問を生徒会が中心となり、本校のアピールを行った。他にも生徒会が企画した全校生徒を巻き込んだのレクリエーションを実施するなど、楽しく活気ある学校作りを目指した取り組みが多く見られた。 2年次以降の部活動加入率が一時期と比較すると若干低下し、特に強化指定部	昨年度同様、生徒数の減少により、一部の部活動が部員不足に陥っている。他校でも同じ現象が起きているが、特に女子の運動部離れに拍車がかかっている。昨年度、運動部、文化部それぞれ1部ずつ廃部とし、精選を図ったが、今後さらなる精選が必要になるかもしれない。部活動に加入することの価値を生徒に認識させ、大学進学の際の校内選考の際に、部
	・部活動を平日2時間程度、土日3時間程度にする。 ・年間を通じて、週あたり平日に1日、土日に1日以上 の休養日を確保することを原則とし、大会日程等を考慮しながら、土、日、祝日において、年間52日以上 の部活動休養日を確保する。 (実行度) 70%以上	本年度は昨年度と比較し、更に実行度数値が向上し、90%を超えた。 「働き方改革」という言葉が社会全体に確実に浸透し、部活動において休養日を設けたり、短時間で効率的に活動に取り組もうとしたりする考え方も定着してきた。 そのような活動が定着してきた結果、以前と比べ生徒の集中力が増したり、学校生活にゆとりが生まれたりしてい	今後も更に、改善できる点は改善を図り、生徒も教職員も、ゆとりのある学校生活を送れるよう配慮していきたい。そのためにも、外部指導者を積極的に雇用し、指導の充実、顧問の負担軽減を図っていきたい。
3 進路支援	a. 「今⇄未来手帳」(自己管理手帳)等を活用し、自らのポートフォリオ(自己省察)を築いていける生徒の育成を図る。 目標：生徒の振り返りを行った評価指数（実行度）70%以上	教員の「今⇄未来手帳」やタブレットを用いての自己管理や振り返り指導の取組度は78%であり、目標70%を上回った。また生徒の学習や課外活動を通しての記録や振り返りの実行度も95%であり、目標70%を大きく上回った。	来年度も、手帳やタブレットによる「自己管理や自己省察」を促す。手帳やタブレットの使用は、集計の必要性やそのときの使いやすさ等により、柔軟に対応してもらおう。また、進路支援部からの活用を促す啓発も定期的に行う。
	b. 進路学習や探究活動、進路情報提供等を通して、主体的に進路を切り開いていける生徒の育成に努める。 目標：生徒の進路実現に向けた取組についての評価指数（実行度）70%以上	生徒の進路探索や進路実現に対する主体的な取組度は、1・2年生81%、3年生は100%と目標70%を大きく上回った。オープンキャンパスや進路ガイダンスについては、積極的に全学年に案内し、参加者も多かった。進路学習としては、3年生は、生徒個々の進路希望先に応じた面接・小論文指導等を全教職員で対応した。	進路実現の為に、「教科の学力」と「探究」の両軸で進み、入試力(小論文、面接も含む)をつけていく。2・3年の探究課題を、生徒の進路志望に沿った課題としており、進路意識や探究力が向上している。また今後も、具体的な進路志望先を2年次2学期までには決定させ、進路志望先が求める教科の学力向上への早期取り組みを推し進める。

4	保健管理	a ポジティブ教育を推進し、自他を尊重するとともに心身の健康を保持増進できる生徒の育成を図る。 目標：心身の健康管理に関する評価指数 (実行度) 90%以上	全学年で「ポジティブ教育」に取り組み、多くの生徒が自分を見つめ直したり、他者との関わりを考えたりする良い機会となった。 自分の健康の保持増進について、ほとんどの生徒と保護者が「十分できた」、「ある程度できた」と回答している。新型コロナウイルス感染症の分類が2類から5類へ引き下げられたが、これまで身につけてきた自己の健康維持についての取り組みを継続し、多くの生徒が健康の保持に努めることができた。毎月の保健室だよりを配信し、朝タブレットを用いて読む時間を設けたことにより生徒への情報発信がこれまでより確実にできた。一方頭痛や腹痛などの体調不良者や欠席者が一定数いるため、その減少が課題である。 教育相談では、年9回のアンケートの	来年度も「ポジティブ教育」を継続し、生徒の自己肯定感や学級への適応感を高め、いじめや不登校等を未然に防ぎたい。 今後も、生徒が健康に高い関心を持ち、自己管理に努めるよう呼びかけていくとともに、毎日のSHでの健康観察や各種健診を行う中で、校医・担任・保護者・関係教員とも連携を図り、疾病の予防に努めたい。また季節に応じた時事的な内容の掲示物を掲示するなどして、生徒の心身の健康への知識習得、活用に繋げていきたい。保健整美委員会の活動としては、体育祭での熱中症対策や、感染症対策の注意喚起活動などが挙げられる。今後もこれまで身につけてきた自己の健康維持についての取り組みを継続させていきたい。 教育相談では、アンケート等を通して、生徒の訴えを見落とさないようにする。
		b 学習環境整備のため毎日の一斉清掃の徹底を図る。また、安全で美しい環境を維持することに努められる生徒を育む。 目標：環境整備への取り組みに関する評価指数 (実行度) 90%以上	保健整美委員会による清掃強化週間を実施したり、清掃に取り組みやすいよう備品を整えたりすることで、今年度も「十分できた」「ある程度できた」と答えた生徒が昨年同様の99%であった。一方、教員は昨年度100%であったものが93%に減少した。教員数の減少により監督場所が複数箇所に及んで広範囲となったことや、行事や出張などにより、清掃の監督や環境美化の指導が十分にいけないと感じている	環境美化に対する意識を高く持たせ、自主的に清掃に取り組みさせるために、来年度も保健整美委員会による、清掃週間活動を実施し、丁寧な清掃を呼びかけたい。また学年末には大掃除の時間を確保し、普段できない部分の清掃を行いたい。来年度も生徒減、教員減により担当場所が、複数ヶ所、広範囲になることが予想される。そのため効率よく十分に清掃や監督ができるよう清掃区域の見直しを図ったり、曜日によって清掃場所を変
		・週1回、ノー残業デーを実施し教職員は定時退庁とする。 ・会議や行事を精査し、簡素化、削減を行う。 (実行度) 80%以上	ノー残業デーの実施、定時退庁について「十分できた」「ある程度できた」と答えた教職員は、昨年の84%から61%と大幅に減少し、目標が達成できなかった。会議の長時間化、またその他業務増により、昨年度より忙しく感じた教員が増えたようである。働き方改革への意識は高まっているが、実践が困難であると思われる。行事の精選を継続し、さらに業務改善への取り	業務の偏りや、とすれば仕事の持ち帰りのため、教員の疲れがたまっている可能性もあるので、注意が必要である。学年会、教科会、校務分掌などでお互いに声を掛け合いながら体調を崩さず勤務できるような体制を整えていく必要がある。また仕事を工夫しながら代休や年休を取りやすい職場環境にしていくことも必要である。会議や行事の簡素化、DX化による業務削減、会議時間短縮などの取り組みは今後も続けていく必要がある
5	図書整備	a 図書委員会活動の活発化・教員の利用促進など図書館利用を高めるための環境づくりに努める。 目標：図書館利用率に関する評価指数 (実行度) 70%以上	教職員の朝読書や教科指導などを通じての読書促進指導の取組度は93%であり、目標を大きく上回っている。一方、図書館を読書の場だけでなく多様に使用できるような環境作りに努めた結果、生徒の図書館活用度に関しては実行度が75%で、目標を上回った。	来年度も図書委員会を中心に、朝読書、図書館行事などを継続していくことで、読書啓発を推進していく。さらに、清潔で使いやすい、活気ある図書館づくりを目指していく。 また、ICTを活用した取組や電子書籍の導入についても考えていく必要があると考える。
		b 社会、教職員、生徒のニーズに合わせた資料を集集、整理、管理する。また、市町図書館と連携し、必要に応じて資料を借り入れるなどして、図書館資料を充実させる。 目標：図書館資料の充実に関する評価指数	図書購入についての教職員の希望や相談のしやすさについては、達成度は97%を得た。図書館の資料や学級文庫の取りそろえ方において、リクエストを随時受付し迅速に購入していることや新刊や話題本などについて常に情報を得て厳選している結果、満足度90%を達成した。	来年度も図書館の資料の充実を図るため、他校や市町の図書館、書店などに出向くなどして常に新しい情報を得て、教職員や生徒たちと相談しながら本を厳選していく。今後、さらに多くの図書委員にその機会を与えていきたいと考える。
6	広報活動、PTA・同窓会活動	a. 本校の学校教育の現状について、積極的な広報活動を行い、地域や保護者等との連絡連携を深める工夫に努める。 目標：広報活動及び地域保護者との連携に関する評価指数 (実行度) 80%以上	教職員の数値が昨年度は100%であったが、今年度は83%となった。一方で、学校行事などの内容を知る機会を得ているという保護者は84%で昨年度よりも5%増加している。PTAの広報誌に写真や動画にアクセスできるように工夫をしたり、感染防止のための制限が緩和され、PTA役員を中心とした学校行事への積極的な参加協力の結果である。また、教職員によるホームページやSNSへの投稿が増えたことも一因で	校内業務の縮減が進まない中で、PTAや地域と連携した活動をする機会が増え、余裕のない教職員が増えてきたものと考えられる。学校について知り、協力したいと考えている保護者もいらっしゃるため、今後もホームページや通信を通して発信し、積極的に保護者や地域に理解・協力を依頼することで、教職員の負担軽減につなげていける分野はないか模索していく必要がある。
		b. 学校教育と連携を深めながらPTA・同窓会活動の充実に努める。 目標：PTA活動の活性化に関する評価指数 (実行度) 80%以上	学校行事やPTA・同窓会活動の企画や内容について理解していると回答した保護者が85%で、昨年度の77%を上回っている。PTAだよりや通信等をホームページに掲載したり、PTA役員が中心となって保護者に学校行事への参加・協力を呼びかけた結果であると考えられる。	感染防止のための制限が緩和されたのをきっかけとして保護者や地域との連携を一層促進するとともに、引き続きPTA役員と連携し、広報活動がいきわたるような働きかけを進めていく必要がある。今年度も同窓会の会合はできなかったが、日ごろから様々な場面で学校運営を支えていただいているということを発信してい